

ここにおられたので、からすがさわいでおしえてくれたんだべ。」

「なるほど、どおりで鳴き方が別だと思った。」

「あれ？今までお観音さま、お腹ごもりされていたべか。」

「いや。今までお腹ごもりされていたなんて、聞いたことがねえな。」

「それでは、ここでお腹ごもりされたのかな。」

こうして、お腹ごもりされたお観音さまを大切に、お運びしておまつりしました。

その後、今のお堂を建立して安置したということです。

この観音さまの腹の中には、一寸五分のみ仏がおられるといわれており、一名おはらごもり観音といわれています。

会津三十三観音の十三番で、ふくじゅさんかんのんじ福聚山観音寺と称し、せいこんぜおんぼさつ聖観世音菩薩で、じかくたいし慈覚大師の草建と

伝えられております。一時住職もなくこうはい荒廃していたのを天正三年僧円智という人が、修補したといわれています。